



十二支の由来

ある時、神様が動物たちを集めて、「お正月の朝、早く来たものから12番目の者をその年の大将とする」と、言いました。猫は、うっかりしていたので、ねずみに尋ねると、ねずみはわざと、次の日を伝えました。ねずみが牛のところに行くと、牛は、「歩くのがゆっくりだから早く出かけよう」というので、ねずみは牛の背中に乗りました。

朝になり、神様の御殿の門まで来ると、ねずみは牛の背中から飛び降りて「私が一番!」とちゃっかり言いました。そして牛が2番。次々とら、うさぎ、たつ、へび、うま、ひつじ、さる、とり、いぬ、いのししと順番に入り、その年の干支にしてもらいました。

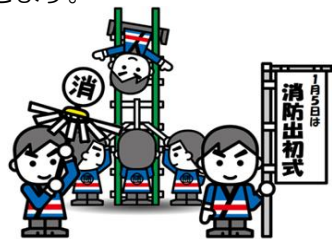
猫はというと、次の日に行っても誰もいないので、門番に尋ねると、「顔を洗って出直してこい!」と言われました。猫が顔を洗うしぐさをするようになり、ねずみを追いかけるのは、この時からだそうです。『園行事資料と展開』

チャイルド社 参照

鏡開き

1月11日は、鏡開きです。

お正月にお供えしたおもちを割り、おしるこなどにさせていただきます。おもちを割るときに、一年の健康をお祈りすると元気に過ごせると言われています。園児の健やかな成長を願って、園では、11日におやつに白玉団子入りぜんざいをいただきます。



振り返りの中で子どもたちを見つめて

明けましておめでとうございます

子どもたちと過ごした年末、年始はいかがでしたでしょうか。平成最後の年となり、春には、新しい元号となります。

ひきつづき、「0歳からの幼児教育～選択と集中 そして状況判断のできる子に」というねらいをもって、子どもたちの姿やつぶやきの中から更に、あそびが展開できるようにしていきます。子どもたちにたくさんの体験をさせ、「楽しい保育」を目指していきたいと思ひます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年の12月に行われた生活発表会では、たくさんの方にお越しいただき、ありがとうございました。会場が手狭にもかかわらず、ご協力のもと会場の入れ替えもスムーズに行われ、保護者の皆さまの温かなまなざしと拍手により、子どもたちは、のびのび楽しそうに演じていました。それぞれの年齢らしさが見える発表会で、一部・二部と通して観てくださった方には、一年間の驚くほどの成長の差を感じていただけたのではと思ひます。絵具あそびを楽しんだものが舞台上の背景となったり、廃材を使って作ったものが劇あそびで使う小道具になったりしたことで安心感、わくわく感が引き出され、いい表情に表れたのではないのでしょうか。子どもたちのチーム力にも感心させられました。5歳児は自分の動きだけではなく、仲間のことも考えて動いたり、視線を送ったりして友だちの気持ちを考えたりできるようになり、その姿に大きな心の成長を感じています。劇あそびや

合奏の中でも”友だちといっしょ”を心地良くと感じたり、反対に“みんなですること”を窮屈に感じたり、難しく感じることも時にはあるかと思ひます。みんなの中の自分に気づく経験は大切なことで、みんなの中で自分の存在価値を見出すことにより、自分はこのままでいいんだな、とありのままの自分に自信をもち、いろいろなことに向かうことができるのです。行事の時だけでなく、自分のことを振り返ることが成長にもつながることになります。保護者の方が書かれたおたより帳には、わが子だけでなく、わが子の周りにいる友だちのことにも気持ちを寄せていただいていることがわかり、嬉しく思いました。様々なことにチャレンジし、友だちと力を合わせ成し遂げた達成感、更に次への意欲となります。

今日もお部屋で子どもたちは楽しいあそびを見つけたり作り出しています。五感を働かせ、驚いたり、なぜ?と不思議に感じたり、そうした楽しい世界を子どもたちと共有し丁寧にかかわる事で更なる「楽しい」をたくさん増やしていきたいと思ひています。

一月は睦月とも呼ばれ、仲睦まじくする月と言われています。お正月あそびや伝承遊びを通して、友だちと仲良く遊ぶことを楽しむ中で子どもたちの発想からオリジナルのルールが生まれたりなどあそびが盛り上がり、広がっていくことでしょう。

インフルエンザの流行はまだ見られません。が手洗い、うがいを励行し予防に努め、健康に冬を過ごしましょう。 園長

七草粥

お正月を過ぎて、7日の朝食に七種類の野菜を入れた粥を食べます。早春の野山に咲く若草を食べることによって、自然界から新たな生命力を得ることができ、無病息災で長生きできるといわれています。

また、七草には、消化を良くする成分やビタミンCが含まれているので、お正月のご馳走で弱り気味の胃を少し休めようという知恵から始まったともいわれています。

春の七草って?

せり・なすな・ごぎょう・はこべら・ほとけのざ・すずな・すずしろ

子育てメッセージ

がんばっている
あなたに...
「ありがとう」

「ありがとう」という言葉は、いろいろな場面で使われますが、その一言で子どもは、自分は認められたという気持ちを持つて居るのです。

自信を失いかけた時、「ありがとう」の言葉はほっとして自信となり、また頑張る力となっていく…。大人も子どもも素直に「ありがとう」が言える社会でありたいですね。

全国私立保育園連盟

子育てメッセージより

